法の水茎 (52)

大正大学講師　髙橋秀城

天高く馬肥ゆる秋。清涼な空気とともに、待望の実りの秋を迎えました。思いっきり深呼吸をしながら空を見上げてみると、高く澄み渡った青空には、さざ波のような鱗雲がゆったりと流れています。

秋風に
初雁が音ぞ
聞こゆなる
誰が玉章を
掛けて来つらむ

（『古今集』紀友則）

（秋風が吹いて、北国から渡ってきた雁の声が聞こえてくる。誰の手紙を持ってきたのだろう）

雲を追い越す渡り鳥の群れは、いったいどこを目指しているのでしょうか。雁は手紙を運ぶ使いとも言われますが、一夏の思い出を携えて、想いを寄せる人のもとに急ぎ向かっているのかもしれません。

慌ただしい中にも、恋しさが募る季節です。

秋の天気が変わりやすいように、心模様も日々揺れ動きます。昨日は晴れやかな心持ちだったのに、今日はどんより掻き曇ったり……人の心は一様ではありません。

言葉も同様です。時には前に話したことと、後で話したことが違ってしまう場合もあるでしょう。自分では意識していなくても、相手には「嘘」をついたと思われたり、「二枚舌」を使ったと受け取られたりしてしまうこともあります。

「二口両舌」という熟語があります。前後で矛盾したことを話す様を指しますが、この「両舌」とは、仏教語で「陰口を叩く」「両方の人にそれぞれ違ったことを言って、仲たがいさせる」という意味です。仏教では「両舌」は十悪の一つとされ、「口汚い言葉で、嘘を言わないこと」（不悪口）が、日常生活において求められています。

ちなみに「嘘」を責められたときに、「口笛」を吹いて誤魔化したりしますが、古くは「嘘」という言葉は「口笛」とも呼ばれていました。口笛のように柔らかく鳴く「鶯」という鳥は、ここから名づけられたと伝えられています。

秋の長雨が終わり、清涼な秋空が訪れる　（撮影・髙岡輝幸氏）

「イソップ物語」を翻訳した仮名草子『伊曽保物語』（江戸時代初期成立）には、「二枚舌」をめぐるコウモリ（蝙蝠）の話が収められています。

ある時、鳥と獣の仲が悪くなり、戦いに及びました。そのうち鳥の軍勢が負けそうになり、「もうこれが最後」と見えたとき、鳥方についていたコウモリは、上手く言いつくろって相手の軍に寝返ります。

鳥たちは嘆き悲しみます。「コウモリでさえ味方を裏切った。もうどうしようもない」と。すると、そこに居合わせた鷲が「何を落ち込んでいるのだ。我がこの陣にいることを頼もしく思え」と強く語ると、再び獣の陣に押し寄せ、雲行きが変わると、互いに和睦を結んで帰ってきたのでした。

鳥たちは口々に言い合います。「コウモリの二心に、どのような罰を与えようか」と。すると古老が口を開きました。「これ程の者を罰しても無駄なこと。今日からは鳥としての交わりを止めよう。もう昼間に飛び回るのではないぞ」とコウモリを戒めると、鳥としての翼を剥ぎ取ります。その後は、紙をはり重ねた衣類を纏うことによって、何とか日暮れにだけは出られるようになったのでした。

このように、人も親しい間柄を捨てて、無益な者の仲間に入ってはいけません。近しい肉親のことを考えなければ、自然の道理にも外れてしまうのです。

（『伊曽保物語』）

コウモリは、「二心」（裏切りの心）から生じた「二枚舌」によって、鳥の仲間から追いやられました。

この話は、

六親不和にして
三宝の加護無し

（親類縁者の仲が悪いようでは、どんなに信心しても神仏の助けは得られない）

という諺にも相通じるものがあるでしょう。

コウモリは「飛翔する唯一の哺乳類」です。空中を飛ぶ能力を持ちながら、鳥類を破門されたコウモリを、私たち人間はどのように眺めたら良いのでしょう。同じ哺乳類の仲間として、「二枚舌」の言動は、とても他人事には思えません。

邪貪にして
厭き足ること無く、
両舌にして
親友を離す。

（『分別業報略経』）

（欲深く満足を知らないで、嘘をついて心の友を引き離す）

鳥には「二心」（迷う心）が無いのでしょうか。秋空に美しい隊列を組む雁行のように、上昇気流に乗り、心一つに飛翔したいものです。

（栃木北部教区普濟寺中）

折り折りの記 (86)

目の縁に眼白眼黒をわける景

波多野　重雄

眼白と眼黒とは共に鶯色をした小鳥で、円な眼の周りに、はっきりと白い輪と黒い輪があって可愛い。

眼白は私が子どもの頃はよく籠でとり遊んだ。

眼黒は小笠原諸島の母島のみに生息している、特別天然記念物である。

眼黒は夜、木の枝に「接触睡眠」する珍しい習性があり微笑ましい。母島の眼白と眼黒は別に群れをなして飛ぶ。

母島のムツゴローさんことガイドの早川さんの、眼黒の宣伝袢纏が見えるようだ。

（髙尾山健康登山の会々長）

百観音霊場巡礼 (20)

厚木市　荒井　一雄

秋遊都幾山
回峰復回峰
登拝千眼像
秋鳥啼飛翔
不忘今日想

須弥山を
回り回りて登るごとく
山頂に凛と仏閣のあり

秋、都幾山（慈光寺）に遊ぶ
回峰、復た、回峰・・・
登拝す、十一面千手千眼
観音像を・・・
秋鳥啼き、飛翔す・・・
忘れず、
今日のこの想ひを・・・

度重なる台風、並びに大雨災害により被害を受けられた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

各地で発生した自然災害により、亡くなられた方々に衷心よりお悔やみ申し上げますとともに、水害などに遭われて、今なお困難な生活を余儀なくされている方々に、重ねてお見舞い申し上げます。

そして、皆様に一刻でも早く平安な日々が訪れますよう、ご祈念申し上げます。

大本山　髙尾山　薬王院